

サテライト文化講演会 第2弾 「吉野ヶ里と魏志倭人伝」

日時：7月9日(火) 17:00~18:30

会場：各校舎サテライト教室

講演者：森 浩 一

(同志社大学文学部教授)

司 会：石 川 晶 康

(河合塾日本史科専任講師)



《講師紹介》 もり・こういち 考古学者。吉野ヶ里遺跡と中国・江南の環濠集落、日本各地の巨大古墳と朝鮮半島的前方後円墳の関係など国際的視野からの発言が注目を集めている。主な著書に『巨大古墳の世紀』『古墳の発掘』『新日本史の旅』、編著に『日本の古代』『日本民俗文化大系』『海と列島文化』などがある。
また、河合出版より対談集『古代は語る』河合ブックレット『古代史は変わる』を出版している。

吉野ヶ里遺跡は弥生研究に何をもたらしたか？ 地域の歴史と邪馬台国論争

「邪馬台国は九州か大和か?」「吉野ヶ里遺跡はなぜ騒がれているのか?」……といったことに興味のある人はもちろん「九州でも大和でもどちらでも関係ないじゃない?」「吉野ヶ里は佐賀県で、環濠集落と倭国大乱でOK、点はとれる!」……と割り切っている人も、ためしにこの講演会に参加しましょう。

第一線の考古学者が何を考えているか。そして、日本史のとらえ方そのものに対する新しい挑戦。サテライトの最大の特性である豊富な映像、VTRを駆使して、わかりやすく、そして刺激的に吉野ヶ里と魏志倭人伝の世界にチャレンジする。

吉野ヶ里は、たんなる米作りのムラでないことは……はじめて倭人伝の記述と対応することが可能になった。
(森 浩一)



河合サテライトネットワーク
